

WORK LIFE BALANCE

～働き方改革に取り組む職員の声～

育児等に関する両立支援制度

両立支援制度のほかテレワークを活用するなど柔軟な働き方ができます

- 出生サポート休暇**
(第二子以降でも使用可能)
年5日(体外受精・顕微授精に係る通院等の場合は10日)
- 産前・産後休暇**
産前6週間、産後8週間
(多胎妊娠の場合は産前14週間)
- 保育時間**
1日2回それぞれ30分以内で勤務しないことが可能
- 育児休業**
配偶者の就業等の状況にかかわらず、原則2回まで取得可能
- 育児短時間勤務**
短い勤務時間(3時間55分×5日等数パターン)での勤務
- 育児時間**
1日の勤務時間の始めか終わり(2時間まで)で勤務しないことが可能
- 子の看護休暇**
年5日(対象となる子が2人以上の場合は年10日)
- 育児を行う職員のフレックスタイム制**
始業・終業時刻を繰り上げ又は繰り下げて勤務
- 介護休暇**
6月の期間内で必要と認められる期間
- 配偶者同行休業**
3年を超えない範囲内

Interview. 1

仕事と家庭の両立を目指して

2024年に第一子が誕生しました。0歳から保育園へ預けており、朝は妻に保育園へ送り届けてもらい、夕方は私がお迎え・子供の夕飯・お風呂などを済ませます。私も育児休業を取得し、現在もフレックスや看護休暇などを活用させてもらっています。共働きが当たり前となっているなか



で、公務員の働き方も改善されてきていると感じています。

私がワークライフバランスのとれた働き方を行えているのは、職場の皆さんに支えていただいているおかげです。私が突然休む事態も生じるため、日ごころからタスクの進捗等を係内に共有し、業務全体が停滞することがないように心がけています。

現在は業務で経済調査を行っています。育児を経験していることで、働き方改革などの社会の動向に対するアンテナが高くなったような気がしています。私生活を通して多角的な視点を養うことは行政官としても重要だと実感しているところです。

当初はおかゆを大量に作りすぎたり、お風呂に入れたら泣かれたりと分からないことだらけで大変苦労しましたが、今では子供と湯船の中で遊んでいる時間が毎日の癒しになっています。家族といられる時間を大切にしつつ、業務にも邁進していきます。



関東財務局総務部経済調査課 調査官

原 大嵩 [2022年採用]
HARA Hirota

- 2022年 財務省大臣官房政策金融課
- 2023年 金融庁総合政策局
リスク分析総括課データ分析統括室
- 2024年 主税局総務課広報係 係長
- 2025年 現職

6:30 起床
妻と子供を起こさないように、静かに準備して出社します。
(9時頃妻が保育園へ送ります)

7:00 出社
ラッシュアワー前なので電車は空いています。ニュースを読みながら通勤します。

8:00~16:30 業務
■ メールチェック、資料作成、幹部説明、調査業務等
残業ができないなかで効率よくタスクを処理できるよう努めています。特に資料作成については、手戻りによって余計な時間が発生しないよう、適宜上司と相談するようにしています。

1日の仕事の流れ

16:30 退庁
保育園へお迎えに行きます。必要であればスーパーで食材を調達して帰宅します。

18:00 夕食・お風呂

Interview. 2

仕事も育児も、そして海外も—家族での挑戦

霞が関・海外での子育て

2023年に育休から復帰し、金融庁企画市場局で課長補佐として勤務した1年間は、仕事と育児の両立に全力を尽くしました。保育園送迎や急な発熱による予定変更など、限られた時間で業務を進める難しさを痛感しましたが、時差出勤やテレワークといった柔軟な制度を活用し、優先順位を明確にしながらチームと連携することを心がけました。周囲の理解と協力なくして乗り切れなかったと感じており、当時のサポート体制には心から感謝しています。

現在はJBICに出向し、シンガポール事務所に駐在しています。初めての海外業務と子育てには不安もありました。実際、渡星当初は環境に慣れない子どものケアをしながら働く日々で、育休復帰直後に匹敵する大変さがありました。それでも新たな挑戦の機会に恵まれ、今では娘が現地の

生活を楽しむ姿に親として安心し、家族で海外生活を送れることに大きな喜びを感じています。シンガポールでは共働き家庭が多く、家事の外部委託が一般的です。また、政府関係者による講演や公開討論の場が多く、政策形成過程を間近で学べることは非常に刺激的です。こうした環境の違いを肌で感じながら、働き方と子育てのバランスを考える貴重な機会となっています。

(株)国際協力銀行シンガポール 駐在員事務所 駐在員

仁井田 朋子 [2017年採用]
NIIDA Tomoko

- 2019年 財務省理財局財政投融資総括課係長
- 2020年 関東財務局理財部 金融証券検査官
- 2022年 育児休業
- 2023年 金融庁企画市場局総務課 課長補佐
- 2024年 現職



子育てとキャリアの両立で得た成長のヒント



育児と仕事を両立する中で痛感したのは、限られた時間で成果を上げるためには、業務の優先順位を明確にし、チーム全体で情報を共有しながら進めることが不可欠だという点です。個人の努力だけでなく、組織として業務を継続できる体制を意識し、調整や連携を重ねる重要性を再認識しました。こうした経験は、政策立案など複雑で多様なステークホルダーが関わる場

面や、マネジメント業務にも活かせると考えています。

今後は、海外で得た視野を活かし、幅広い業務に柔軟な発想と多角的な視点を持って取り組みたいと思います。働き方の多様化が進む中で、個人と組織が補完し合う仕組みを強化し、持続的な成長に寄与していきたいと考えています。

学生へのメッセージ～自分らしい働き方を描くために～

働き方に「正解」はありません。ライフイベントや環境の変化に応じ、柔軟に選択しながらキャリアを築くことが大切です。新しい挑戦には不安もありますが、共働き

で子育てしながら海外勤務に挑戦したことで、視野を広げる貴重な機会を得ました。挑戦の過程には困難もありますが、その先には業務を通じて社会に貢献する充実感

と成長があります。私たちの職場には国内外で幅広いキャリアを描ける環境があります。視野を広げながら、是非自分がやりたいことに挑戦し続けていってください。

